

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

| | | | |
|--|----------------------|------|---------|
| 大学・短期大学名 | 香川医科大学 | 整理番号 | 1-2-147 |
| 応募テーマ | 主として教育課程の工夫改善に関するテーマ | | |
| 取組名称 | 6年一貫体制による保健医療福祉総合学習 | | |
| 申請単位 | 大学全体 | | |
| 申請担当者 | 高原 二郎 | | |
| <p>(取組の概要)</p> <p>6年一貫体制による保健医療福祉総合学習は、変化する社会・環境に対応しつつ、教養を備えた人間性豊かで、健康増進から予防、治療、リハビリテーションにわたる全人的、包括的医療が実践できる医師の養成を目指したものである。強調すべきことは、専門分化し、細胞・遺伝子レベルで考察しがちな医学・医療に対して、これらを統合し、実際の地域社会で生活する人々のレベルで保健、医療、福祉を捉えて、学習するようにしていることである。そのために、カリキュラムを全面的に見直し、「総合保健福祉医療学」を創設する等して、教養教育と連携した早期学習と統合型学習を行い、現場性と体験を重視している。具体的には、現場からの多くの講師による講義と演習、多種類の施設における見学実習、病棟における看護・介護実習、地域におけるボランティア体験、健康教育及びカウンセリングの具体的な技術修得等に力を入れ、さらに学年進行と共に、これらと連動して改革を行った基礎・臨床・社会医学教育を学ぶことにより、医療人としての専門性と社会性を高め、21世紀の社会の要請に応え得る医師の養成を目指したカリキュラムを策定し、実施している。</p> | | | |
| <p>(採択理由)</p> <p>本取組は、保健医療福祉医療学を創設して、総合的視野に立った①保健医療福祉看護・介護論、②保健指導・心理行動科学、③少子高齢化社会の保健医療福祉、④ボランティア体験学習、⑤臨床心理/家族・チームケア、⑥時事医学を教育しようとするものです。これらは、時代的・社会的要請に応えようとするもので、とりわけ看護学科を擁する特性から、「保健医療福祉看護・介護論」をカリキュラム上に加えようとする点に特色があります。ここには、従来医療現場があまりにも医師優位であったことに対する反省が込められており、将来の医療の在り方にとって重要な意味を含んでいるものです。ただし、全体のカリキュラムを見ると、知識の教育に費やされる時間が他大学と比較して少ないように見受けられます(このことの反省が極端に出た例といえるところです)。とりわけ、新たに「保健医療福祉医療学」として取り上げられている中身には社会医学の内容が数多く含まれており、当該大学において必要だという議論があり決定されたこととはいえ、若干の危惧を禁じ得ません。また、本取組が医学教育においても最も重要な臨床実習にまで及んでいないこと、また4年しか経過しておらず6年一貫に対する評価が判定できないこと、学生の学修を記録管理する組織が明確にされていないことなど、様々な問題点も含んでいると思われる。</p> | | | |